

2018年9月11日  
メットライフ生命保険株式会社

メットライフ生命 敬老の日に向けて  
「『老後を変える』全国47都道府県大調査」を実施  
～どの年代も老後への備えに約2,000万円前後の乖離あり。60代～70代の意識傾向に地域差あり～

メットライフ生命保険株式会社(代表執行役 会長 社長 最高経営責任者 サシン・N・シャー)は、「敬老の日」にむけて、全国47都道府県の20歳～79歳までの男女14,100人を対象に、「老後」に関する調査を実施し、その結果をまとめましたのでお知らせします。

本調査は、人生100年時代の到来といわれるなか、「老後」についての年代間・地域間などの意識の違いや、「健康」、「お金」、「人とのつながり」などへの意識や傾向などに焦点をあてました。

当社では、お客さまが健康で豊かな老後を過ごせるよう、そして誰もが明るく豊かな老後を思い描くことができるよう「老後を変える」というテーマのもと、様々な取り組みを行っており、本調査はその一環として実施したものです。

**1. 世代間調査(全国版)：(詳細:3～8ページ参照)**

- (1) 20代～70代の全年代において、「老後の備えとして十分な金融資産と自ら想定している金額」と「現在の金融資産」を比較すると、どの年代も、約2,000万円前後の乖離があった。
- (2) 「老後に不安がない・あまりない」と回答した60代～70代のうち、4割以上(41.8%)が「資産運用をしている」と回答。金融資産額は平均して2,653万円であり、「老後の不安がある・ややある」と回答した同世代の金融資産額(平均1,545万円)と比較し、約1,100万円の差があった。
- (3) 老後に対する不安は、40代が最も高いが、それを過ぎた50代以降は減少傾向。男性に比べ女性の方が不安度が高いという結果に。老後に対する具体的な不安要因を年代別にみると、20代が30代～50代と比較して、「認知症」や「自らの介護」に対する不安感が「お金」に次いで高いという特徴的な結果になった。
- (4) 20代～30代が考える「老後を感じるきっかけ」は、「60代になったら」「年金を受給し始めたら」「退職したら」が上位。一方で、60代～70代が「老後を感じるきっかけ」は、年金や退職などの社会的要因より、「身体が思うように動かないと感じたら」「気持ちが老け込んだら」という自らの実感が高かった。
- (5) 人生100年時代、「何歳まで生きたいか」聞いたところ、20代が77.5歳と最も短く、60代～70代は84.5歳と最も長かった。男女別にみると、ほとんどの年代で平均寿命<sup>(※1)</sup>(男性81.09歳、女性87.26歳)に対して低く想定しており、寿命への意識と、実際の寿命にギャップがある可能性がみられた。また、相対的に男性が女性よりも自らの寿命を長く想定している結果になった。
- (6) 老後に積極的に取り組みたいことは、「趣味」、「旅行」、「家族で過ごす」が男女ともに上位。男女間の差が最も大きかったのは、人とのつながりを示す「友人と過ごすこと」。

**2. 地域間調査(都道府県版)：(詳細:9～10ページ、別添11～19ページ参照)**

全国版調査からみえてきた、各都道府県に在住<sup>(※2)</sup>の60歳以上の傾向

- 「資産」は、鳥取県、宮城県、兵庫県、和歌山県がそれぞれの項目で1位に。
- 「健康」は、山梨県、神奈川県・京都府・熊本県がそれぞれの項目で1位に。
- 「人とのつながり」は、島根県、徳島県、秋田県が、それぞれの項目で1位に。

(※1)厚生労働省「平成29年簡易生命表」、(※2)2018年6月本調査実施時点

<添付>

## メットライフ生命 『老後を変える』全国 47 都道府県大調査

### <目次>

#### 調査結果

##### 1. 世代別(全国版):

- (1) 老後への備え.....P 3
- (2) 老後に不安のない 60~70 代の資金準備.....P 4
- (3) 老後に対する不安.....P 5
- (4) 老後とを感じるきっかけ.....P 6
- (5) 寿命への意識と平均寿命のギャップ.....P 7
- (6) 老後に取り組みたいことトップ 10.....P 8

##### 2. 地域別(各都道府県版):

- 全国版調査からみえてきた、各都道府県に在住<sup>(※2)</sup>の 60 歳以上の傾向..... P 9
- 【資産】 老後への資産準備意識.....P 9
- 【健康】 老後への健康意識.....P 9
- 【人とのつながり】 日常生活における人とのつながり意識.....P10
- <別添> 地域別の 9 項目の 47 都道府県ランク表.....P11-P19

#### 調査概要

1. 調査対象: 全国 47 都道府県に在住<sup>(※2)</sup>の 20 歳~79 歳の男女を、各都道府県で性・年代別に各 30 人ずつ(60 歳~79 歳は合算)合計 14,100 人
2. 調査方法: インターネット調査
3. 調査数: 14,100 人
4. 調査時期: 2018 年 6 月

## 調査結果

### 1. 世代別(全国版)

#### (1) 老後への備え

20代～70代の全年代において、「老後の備えとして十分な金融資産と自ら想定している金額」と「現在の金融資産」を比較すると、どの年代も、約2,000万円前後の乖離があった。年代や、保有している金融資産額が上がっても、約2,000万円前後の乖離は変わらないという結果。

表1に示すように、「現在の金融資産額」は、20代から順に年代が上がるにつれて増えており、同様に、「老後の備えとして十分な金融資産と自ら想定している金額」も、年代に合わせて上がっている。しかしながら、20代～70代までのすべての年代において、「老後の備えとして十分な金融資産と自ら想定している金額」と、「現在の金融資産額」に、約2,000万円前後の乖離があった。年代や保有している金融資産額が上がっても、約2,000万円前後の乖離は変わらないという結果に。

<表1>

	現在の金融資産額 (年代内の平均額)	老後の備えとして十分な金融資産と 自ら想定している金額	差額
20代	244万円	2,333万円	-2,089万円
30代	494万円	2,906万円	-2,412万円
40代	780万円	3,093万円	-2,313万円
50代	1,132万円	3,424万円	-2,293万円
60代～70代	1,830万円	3,553万円	-1,724万円

※千円単位で四捨五入。

## (2) 老後に不安のない 60 代～70 代の資金準備

「老後に不安がない・あまりない」と回答した 60 代～70 代のうち、4 割以上 (41.8%) が「資産運用をしている」。金融資産額は平均して 2,653 万円であり、「老後の不安がある・ややある」と回答した同世代の金融資産額 (平均 1,545 万円) と比べ、約 1,100 万円の差があることがわかった。また、「老後に不安がない・あまりない」と回答した人の 7 割以上 (74.4%) が、「若いうちは貯金よりも自分に投資をすべき」と答えた。

60 代～70 代の男女 (4,816 人) のうち、「老後に不安がない・あまりない」と回答したのは 26.4%。そのうち、「資産運用をしている」と回答したのは、4 割以上 (41.8%)。「老後に不安がある・ややある」と回答した人のうち、「資産運用をしている」割合は約 3 割 (31.3%) であった。

また、「老後の不安がない・あまりない」と回答した人のうち、「老後の備えを計画的に貯蓄している」のは 27.1%。一方で、「老後に不安がある・ややある」と回答した人のうち、「老後の備えを計画的に貯蓄している」のは 13.2% と、老後への不安がない人と比べて低い結果となった。

「老後に不安がない・あまりない」と回答した人の金融資産額をみると、平均 2,653 万円で、「老後に不安がある・ややある」人の金融資産額 (平均 1,545 万円) と比較し、約 1,100 万円の差があることが分かった。

また、同年代の「老後に不安がない・あまりない」と回答した人の 7 割以上 (74.4%) が、「若いうちは、貯金よりも自分に投資をすべき」と回答。

### <表 2>

<60 代～70 代男女 (4,816 人)>	老後に不安がない・ あまりない (26.4%)	老後に不安がある・ ややある (73.6%)
資産運用をしている	41.8%	31.3%
老後の備えを計画的に貯蓄している	27.1%	13.2%
金融資産額	平均 2,653 万円	平均 1,545 万円

### (3) 老後に対する不安

老後に対する不安は、40代が最も高いが、それを過ぎた50代以降は減少傾向。男性に比べ女性の方が不安度が高いという結果に。  
 老後に対する具体的な不安要因を年代別にみると、20代が30代～50代と比較して、「認知症」や「自らの介護」に対する不安感が「お金」に次いで高いという特徴的な結果になった。

表3に示すように、「自らの老後について不安を感じるか」という質問に対し、年代を重ねるごとに不安度は上がり、40代が最も不安度が高い(87.6%)世代となったが、その後の50代以降不安度が下がる傾向がみられた。また、平均すると男性に比べて女性の方が、老後に対する不安度が高いという結果になった。

表4のように、老後に対する不安要因のうち20代～50代では共通して「お金」が最も高い不安要因であったが、年代別にみると、若年層である20代は、「認知症」と「自らの介護」への不安度が高いという特徴的な結果となった。

<表3>

<全体 14,100人>		老後への不安ある・ややある
(性別)		
男性		79.3%
女性		84.0%
(年代別)		
20代		83.1%
30代		86.2%
40代		87.6%
50代		85.9%
60代～70代		73.6%

<表4>

20代	30代	40代	50代	60代～70代
1. お金	1. お金	1. お金	1. お金	1. 健康
2. 認知症	2. 健康	2. 健康	2. 健康	2. 認知症
3. 自らの介護	3. 認知症	3. 認知症	3. 認知症	3. 自らの介護
4. 健康	4. 自らの介護	4. 自らの介護	4. 自らの介護	4. お金
5. 両親の介護	5. 両親の介護	5. 両親の介護	5. 配偶者の介護 5. 両親の介護	5. 配偶者の介護

#### (4) 老後と感ずるきっかけ

20代～30代が考える「老後と感ずるきっかけ」は、「60代になつたら」「年金を受給し始めたら」「退職したら」が上位。一方で、60代～70代が「老後と感ずるきっかけ」は、年金や退職などの社会的要因より、「身体が思うように動かないと感ずたら」という自らの実感が高い。

「老後と感ずるきっかけ」を、全世代に聞いた結果、20代～30代は「60代になつたら」、「年金を受給し始めたら」、「退職したら」が上位となつた。一方で、現在60代以上の人の回答をみると、「年金を受給し始めたら」や「退職したら」のいずれも他の項目と比較して低く、「70代になつたら」という回答とともに、「身体が思うように動かないと感ずたら」、「気持ちが老け込んだら」という自らの実感から老後と感ずるという結果になつた。

<表 5>

20代	30代	60～70代
1. 60代になつたら (48.2%)	1. 60代になつたら (45.4%)	1. 70代になつたら (48.5%)
2. 年金を受給し始めたら (43.8%)	2. 退職したら (38.5%)	2. 身体が思うように動かない と感ずたら (47.0%)
3. 退職したら (42.0%)	3. 年金を受給し始めたら (37.3%)	3. 気持ちが老け込んだら (30.0%)

#### (5) 寿命への意識と平均寿命のギャップ

人生 100 年時代、「何歳まで生きたいか」聞いたところ、20 代が 77.5 歳と最も短く、60 代～70 代は 84.5 歳と最も長かった。男女別にみると、ほとんどの年代で平均寿命<sup>(※1)</sup>(男性 81.09 歳、女性 87.26 歳)に対して低く想定しており、寿命への意識と、実際の寿命にギャップがある可能性がみられた。

また、相対的に男性の方が女性よりも自らの寿命を長く想定している結果となった。

人生 100 年時代の到来といわれるなか、20 代～70 代の全世代に「何歳まで生きたいか」と、寿命への意識を聞いた結果、20 代が 77.5 歳と最も短く、それに対して 60 代～70 代は 84.5 歳と最も長い。2017 年の平均寿命<sup>(※1)</sup>は、男性が 81.09 歳、女性が 87.26 歳で過去最高を更新しているが、男性 60 代～70 代以外では、男女それぞれにおいて、平均寿命よりも低い寿命意識をもっており、実際の寿命とのギャップがある可能性が考えられる結果となった。

また、各年代の男性と女性を比較すると、30 代以外の年代において、男性の方が寿命を長く意識しているという結果であった。(※1 厚生労働省「平成 29 年 簡易生命表」より)

<表 6>

	平均	女性	男性
20 代	77.5 歳	76.9	78.1
30 代	78.9 歳	79.0	78.8
40 代	78.5 歳	77.2	79.7
50 代	79.7 歳	79.0	80.5
60 代～70 代	84.5 歳	83.7	85.3

#### (6) 老後に取り組みたいことトップ10

老後に積極的に取り組みたいことは、男女ともに「趣味」、「旅行」、「家族で過ごすこと」が上位。男性に比べ女性の方が積極的に取り組みたい意欲が高い傾向。  
男女間の差が最も大きかったのは、人とのつながりを示す「友人と過ごすこと」という結果に。

20代～70代の男女で、「老後になったら積極的に取り組みたいこと」は、1位「趣味」、2位「旅行」、3位「家族と過ごすこと」、4位「読書」、5位「友人と過ごすこと」という結果であった。

男女別でみると、表7に示すように、1位～3位までの項目は同じであるものの、人とのつながりを示す「友人と過ごすこと」は、女性は4位(33.8%)である一方、男性は6位(15.8%)と、男女の間で最も大きな差を示す項目となった。

<表7>

女性	男性
1. 趣味 (62.7%)	1. 趣味 (66.8%)
2. 旅行 (58.7%)	2. 旅行 (51.3%)
3. 家族と過ごすこと (50.7%)	3. 家族と過ごすこと (39.4%)
4. 友人と過ごすこと (33.8%)	4. 読書 (25.2%)
5. 読書 (30.3%)	5. 休養 (18.6%)
6. ひとりで過ごす (20.2%)	6. 友人と過ごす (15.8%)
7. 休養 (19.4%)	7. ひとりで過ごす (15.5%)
8. 社会貢献 (14.7%)	8. 仕事 (14.4%)
9. 勉強 (14.0%)	9. 社会貢献 (13.8%)
10. 仕事 (11.2%)	10. 勉強 (12.6%)



## 2. 地域別(各都道府県版):

全国版調査からみえてきた、各都道府県に在住<sup>(※2)</sup>の60歳以上の傾向

本調査結果は、『老後を変える』全国47都道府県大調査の中から、各都道府県に在住の60歳以上の男女、合計2,820人(各都道府県、男女60名ずつ)のデータを抽出。「資産」、「健康」、「人とのつながり」の各カテゴリーにおいて、全国の60歳以上平均と比較し、各都道府県在住の60歳以上のスコアが特に高かったものを、傾向としてまとめました。(※2 本調査実施時に在住)

(以下各項目の47都道府県別データ詳細は本リリースの<別添>をご参照くださいませ。)

### 【資産】老後への資産準備意識

#### ■ 「(金融資産があると回答した方のうち)老後に備えて計画的に貯めている」

1位	鳥取県	38.2
2位	東京都	31.7
3位	茨城県	25.0
	全国平均	15.2

#### ■ 「(老後の備えがあると回答した方のうち)老後の備えを『資産運用の資金』として使いたい」

1位	宮城県	30.3
2位	愛媛県	28.1
3位	大阪府	27.0
	全国平均	16.7

#### ■ 「資金運用経験がある」

1位	兵庫県	70.0
2位	千葉県	68.3
3位	福井県	65.0
	全国平均	49.3

#### ■ 「資産をなるべく多く子どもに遺したい」

1位	和歌山県	23.3
2位	福岡県	21.7
3位	福島県、滋賀県、京都府、大阪府、愛媛県、高知県	18.3
	全国平均	12.0

### 【健康】老後への健康意識

#### ■ 「健康について『食生活をとても意識している』」

1位	山梨県	50.0
2位	山形県、静岡県	48.3
	全国平均	38.5

#### ■ 「健康について『運動をとても意識している』」

1位	神奈川県、京都府、熊本県	40.0
	全国平均	27.3

## 【人とのつながり】 日常生活における人とのつながり意識

### ■ 「現在の住まいで『近所づきあいが、ある』」

1位	島根県	53.3
2位	山形県、鳥取県	50.0
	全国平均	33.3

### ■ 「『配偶者と過ごす時間が、楽しい』」

1位	徳島県	87.8
2位	島根県	87.2
3位	大分県	87.0
	全国平均	76.6

### ■ 「万が一ご自信に介護が必要になった場合、『自宅介護を希望する』」

1位	秋田県	61.7
2位	福井県、香川県、鹿児島県	60.0
	全国平均	50.1

以上

### 「#老後を変える」取り組み

人生100年時代の到来といわれるなか、多くのお客さまの「健康で長生きしたい」「老後をお金の心配をせずに暮らしたい」という思いにお応えするため、「#老後を変える」というテーマで、さまざまな取り組みをしています。「#老後を変える特設サイト」(<https://www.metlife.co.jp/changerougo/>)では、健康的に歳を重ねるための専門家のアドバイスなどを提供。また、9月からは全国7地区で「メットライフ生命 老後を変える地域研究会」を開催いたします。

### メットライフ生命について

メットライフ生命は、日本初の外資系生命保険会社として 1973 年に営業を開始し、多様な販売チャネルを通して、個人・法人のお客さまに革新的かつ幅広いリスクに対応できる商品を提供してまいりました。現在は日本法人「メットライフ生命保険株式会社」として、お客さまに常に寄り添い、お客さま自らが自信を持って最適な保障を選ぶお手伝いをし続けることに努めています。

<http://www.metlife.co.jp/>

<別添>

**【資産】 老後への資産準備意識**

■ 「(金融資産があると回答した方のうち)老後に備えて計画的に貯めている」

1位	鳥取県	38.2			
2位	東京都	31.7			
3位	茨城県	25.0			
4位	山梨県	24.2			
5位	京都府	23.3			
	兵庫県	23.3			
7位	沖縄県	23.1			
8位	宮城県	22.2			
9位	島根県	20.0			
10位	大阪府	19.0			
11位	福岡県	18.9			
	奈良県	18.9			
13位	神奈川県	17.5			
	三重県	17.5			
15位	青森県	17.1			
16位	佐賀県	16.1			
17位	熊本県	15.2			
18位	和歌山県	15.0			
	滋賀県	15.0			
	北海道	15.0			
	福井県	15.0			
22位	山口県	14.7			
	秋田県	14.7			
24位	岩手県	14.6			
				新潟県	14.6
			26位	岐阜県	14.0
			27位	千葉県	13.9
				鹿児島県	13.9
			29位	栃木県	13.5
			30位	長野県	12.9
			31位	香川県	12.8
			32位	石川県	12.5
				静岡県	12.5
			34位	愛媛県	11.8
				広島県	11.8
				岡山県	11.8
			37位	埼玉県	11.4
				群馬県	11.4
			39位	宮崎県	11.1
			40位	山形県	10.0
			41位	大分県	8.1
			42位	高知県	6.8
			43位	愛知県	6.5
			44位	長崎県	6.3
			45位	徳島県	5.6
			46位	富山県	4.7
			47位	福島県	2.7
				全国平均	15.2

■ 「(老後の備えがあると回答した方のうち)老後の備えを『資産運用の資金』として使いたい」

1位	宮城県	30.3			
2位	愛媛県	28.1			
3位	大阪府	27.0			
4位	奈良県	26.5			
5位	神奈川県	26.3			
6位	東京都	25.0			
	和歌山県	25.0			
8位	徳島県	23.5			
9位	石川県	22.7			
10位	千葉県	21.9			
11位	宮崎県	20.6			
12位	新潟県	20.0			
	岡山県	20.0			
14位	三重県	19.4			
	香川県	19.4			
16位	群馬県	18.8			
17位	滋賀県	18.4			
18位	山口県	18.2			
19位	富山県	17.9			
	福井県	17.9			
21位	埼玉県	17.6			
22位	岩手県	17.5			
23位	広島県	17.2			
24位	鹿児島県	17.1			
				兵庫県	17.1
			26位	大分県	16.7
			27位	京都府	16.0
			28位	島根県	15.2
			29位	北海道	14.3
			30位	高知県	14.0
			31位	愛知県	13.8
				長崎県	13.8
			33位	熊本県	13.3
			34位	福島県	12.5
				静岡県	12.5
			36位	青森県	11.4
			37位	長野県	11.1
			38位	佐賀県	10.7
			39位	秋田県	10.0
				山梨県	10.0
			41位	岐阜県	9.8
			42位	栃木県	9.1
			43位	茨城県	8.8
			44位	山形県	7.7
			45位	鳥取県	6.3
			46位	沖縄県	4.2
			47位	福岡県	2.9
				全国平均	16.7

■「資金運用経験がある」

1位	兵庫県	70.0
2位	千葉県	68.3
3位	福井県	65.0
4位	香川県	63.3
5位	奈良県	61.7
6位	神奈川県	58.3
7位	愛媛県	56.7
	東京都	56.7
	和歌山県	56.7
	滋賀県	56.7
	愛知県	56.7
	栃木県	56.7
13位	埼玉県	55.0
	高知県	55.0
	山梨県	55.0
16位	大阪府	53.3
	新潟県	53.3
	山口県	53.3
	京都府	53.3
20位	石川県	51.7
	宮崎県	51.7
	富山県	51.7
	長野県	51.7
24位	群馬県	50.0

	静岡県	50.0
26位	岡山県	46.7
	茨城県	46.7
	福岡県	46.7
29位	徳島県	45.0
	大分県	45.0
	北海道	45.0
32位	長崎県	43.3
	沖縄県	43.3
34位	三重県	41.7
	広島県	41.7
36位	宮城県	40.0
	岩手県	40.0
	岐阜県	40.0
	山形県	40.0
	鳥取県	40.0
41位	鹿児島県	38.3
	青森県	38.3
	佐賀県	38.3
44位	島根県	36.7
	熊本県	36.7
	秋田県	36.7
47位	福島県	33.3
	全国平均	49.3

■ 「資産をなるべく多く子どもに遺したい」

1位	和歌山県	23.3
2位	福岡県	21.7
3位	愛媛県	18.3
	滋賀県	18.3
	高知県	18.3
	大阪府	18.3
	京都府	18.3
	福島県	18.3
9位	香川県	16.7
	奈良県	16.7
	岩手県	16.7
12位	千葉県	15.0
	愛知県	15.0
	栃木県	15.0
	山梨県	15.0
	広島県	15.0
	鹿児島県	15.0
18位	神奈川県	13.3
	茨城県	13.3
	北海道	13.3
21位	新潟県	11.7
	石川県	11.7
	岡山県	11.7
	長崎県	11.7

	熊本県	11.7
26位	兵庫県	10.0
	山口県	10.0
	富山県	10.0
	長野県	10.0
	徳島県	10.0
	大分県	10.0
	沖縄県	10.0
	宮城県	10.0
34位	福井県	8.3
	東京都	8.3
	三重県	8.3
	佐賀県	8.3
	島根県	8.3
39位	埼玉県	6.7
	群馬県	6.7
	鳥取県	6.7
	青森県	6.7
43位	宮崎県	5.0
	静岡県	5.0
	山形県	5.0
46位	秋田県	3.3
47位	岐阜県	1.7
	全国平均	12.0

【健康】 老後への健康意識

■ 「健康について『食生活をとても意識している』」

1位	山梨県	50.0
2位	静岡県	48.3
	山形県	48.3
4位	岩手県	46.7
	千葉県	46.7
6位	京都府	45.0
	兵庫県	45.0
	山口県	45.0
	長崎県	45.0
10位	鳥取県	43.3
	青森県	43.3
	佐賀県	43.3
	埼玉県	43.3
	群馬県	43.3
15位	福岡県	41.7
	神奈川県	41.7
17位	大阪府	40.0
	奈良県	40.0
	熊本県	40.0
	和歌山県	40.0
	北海道	40.0
	徳島県	40.0
23位	東京都	38.3
	三重県	38.3

	長野県	38.3
26位	茨城県	36.7
	宮城県	36.7
	島根県	36.7
	岡山県	36.7
	愛知県	36.7
31位	沖縄県	35.0
	滋賀県	35.0
	新潟県	35.0
	鹿児島県	35.0
	石川県	35.0
	愛媛県	35.0
	広島県	35.0
38位	大分県	33.3
	福島県	33.3
40位	福井県	31.7
	秋田県	31.7
	岐阜県	31.7
43位	栃木県	30.0
	香川県	30.0
	高知県	30.0
	富山県	30.0
47位	宮崎県	25.0
	全国平均	38.5

■ 「健康について『運動をととも意識している』」

1位	京都府	40.0
	神奈川県	40.0
	熊本県	40.0
4位	群馬県	38.3
	石川県	38.3
6位	山梨県	36.7
	静岡県	36.7
	新潟県	36.7
9位	山形県	33.3
	大阪府	33.3
11位	岩手県	31.7
	長崎県	31.7
13位	千葉県	30.0
	兵庫県	30.0
	佐賀県	30.0
	福岡県	30.0
	宮城県	30.0
18位	埼玉県	28.3
	和歌山県	28.3
	愛知県	28.3
	高知県	28.3
22位	鳥取県	26.7
	徳島県	26.7
	長野県	26.7

	茨城県	26.7
	島根県	26.7
	沖縄県	26.7
28位	山口県	25.0
	奈良県	25.0
	北海道	25.0
	鹿児島県	25.0
	広島県	25.0
	香川県	25.0
34位	三重県	23.3
	大分県	23.3
	岐阜県	23.3
37位	岡山県	21.7
	滋賀県	21.7
39位	青森県	20.0
	愛媛県	20.0
	栃木県	20.0
	宮崎県	20.0
43位	東京都	18.3
	秋田県	18.3
	富山県	18.3
46位	福島県	13.3
	福井県	13.3
	全国平均	27.3



【人とのつながり】 日常生活における人とのつながり意識

■ 「現在の住まいで『近所づきあいが、ある』」

1位	島根県	53.3
2位	山形県	50.0
	鳥取県	50.0
4位	岐阜県	43.3
5位	大分県	41.7
6位	奈良県	40.0
	滋賀県	40.0
8位	熊本県	38.3
	山梨県	38.3
	高知県	38.3
	山口県	38.3
	香川県	38.3
	福島県	38.3
	福井県	38.3
15位	静岡県	36.7
	大阪府	36.7
	佐賀県	36.7
	岡山県	36.7
19位	群馬県	35.0
	長野県	35.0
	茨城県	35.0
22位	新潟県	33.3
	岩手県	33.3
	和歌山県	33.3

	秋田県	33.3
26位	青森県	31.7
27位	兵庫県	30.0
	徳島県	30.0
	三重県	30.0
	栃木県	30.0
31位	京都府	28.3
	神奈川県	28.3
	石川県	28.3
	福岡県	28.3
	北海道	28.3
	広島県	28.3
37位	長崎県	26.7
	鹿児島県	26.7
	愛媛県	26.7
	宮崎県	26.7
41位	千葉県	25.0
	埼玉県	25.0
43位	愛知県	23.3
	東京都	23.3
	富山県	23.3
46位	宮城県	21.7
	沖縄県	21.7
	全国平均	33.3

■ 『配偶者と過ごす時間が、楽しい』

1位	徳島県	87.8
2位	島根県	87.2
3位	大分県	87.0
4位	愛媛県	85.7
	東京都	85.7
6位	新潟県	84.1
7位	宮城県	83.7
	山口県	83.7
9位	愛知県	82.5
10位	三重県	82.4
11位	佐賀県	81.6
12位	山梨県	81.3
13位	福井県	80.4
	静岡県	80.4
	奈良県	80.4
16位	鳥取県	79.2
	千葉県	79.2
18位	兵庫県	79.1
19位	福島県	78.7
	栃木県	78.7
21位	北海道	77.8
22位	岡山県	77.6
	埼玉県	77.6
24位	宮崎県	77.5

25位	神奈川県	77.3
26位	秋田県	76.6
27位	石川県	75.5
28位	青森県	74.4
29位	熊本県	73.9
	京都府	73.9
31位	高知県	73.8
	沖縄県	73.8
33位	群馬県	72.9
34位	茨城県	72.7
	鹿児島県	72.7
36位	山形県	71.7
37位	岩手県	70.8
38位	和歌山県	70.7
39位	滋賀県	70.6
40位	長野県	70.2
	広島県	70.2
42位	香川県	70.0
43位	岐阜県	69.6
44位	大阪府	68.2
45位	富山県	67.4
46位	長崎県	65.9
47位	福岡県	61.2
	全国平均	76.6

■「万が一ご自信に介護が必要になった場合、『自宅介護を希望する』」

1位	秋田県	61.7	25位	愛知県	50.0
2位	福井県	60.0		佐賀県	50.0
	鹿児島県	60.0		岐阜県	50.0
	香川県	60.0	28位	愛媛県	48.3
5位	奈良県	58.3		山口県	48.3
	兵庫県	58.3		北海道	48.3
	京都府	58.3		群馬県	48.3
	大阪府	58.3		滋賀県	48.3
9位	茨城県	56.7	33位	徳島県	46.7
10位	島根県	55.0		東京都	46.7
	新潟県	55.0		熊本県	46.7
	三重県	55.0		福岡県	46.7
	栃木県	55.0	37位	千葉県	45.0
	埼玉県	55.0		宮崎県	45.0
	神奈川県	55.0	39位	青森県	43.3
	高知県	55.0		岩手県	43.3
17位	大分県	53.3	41位	石川県	41.7
	福島県	53.3		長野県	41.7
	岡山県	53.3	43位	山形県	40.0
	和歌山県	53.3		長崎県	40.0
	富山県	53.3	45位	鳥取県	36.7
22位	宮城県	51.7	46位	静岡県	31.7
	山梨県	51.7		沖縄県	31.7
	広島県	51.7		全国平均	50.1